

令和4年産米を巡る情勢

3年産うるち米の契約・出荷状況 (全国)

6月末出荷実績は1,178千ト(前年比98%)となっており、一昨年との比較では91%と大幅に下回っている。

主な要因として、コロナ禍による業務用向け需要の減少や持越(古米)在庫の増加(平成30年産12万ト↓令和元年産22万ト↓令和2年産42万ト)による年産切替の遅れ等が考えられる。

7月以降、現在の出荷進捗で推移した場合、令和4年10月末の新古合わせた持越米は48万ト程度と見込まれ、前年を5万ト上回る見通しとなっている。

【3年産うるち米の契約・出荷状況 (全国・6月末現在)】 (単位：千ト)

年産	販売計画	契約数量	出荷実績				
			～9月	10～12月	1～3月	4～6月	合計
3年度	2,127	2,022	62	288	346	483	1,178
2年度	2,155	1,789	59	289	371	487	1,206
元年度	2,037	1,757	64	344	432	461	1,300
3/2	99%	113%	105%	100%	93%	99%	98%
3-2	▲ 28	233	3	▲ 1	▲ 25	▲ 4	▲ 28
3/元	104%	115%	97%	84%	80%	105%	91%
3-元	91	265	▲ 2	▲ 56	▲ 86	22	▲ 122

4年産米の需給見通し

○ J A 全中・J A 全農調査によれば、4年産5月末時点の主食用米等生産量は676万ト(前年平年作比▲2.8%)と、国の基本指針の675万ト(前年平年作比▲3%)に近づいている。

○ 月次の民間在庫は前年を5万ト程度上回って推移している。

○ J A 全農試算では、新型コロナウィルス関連の行動規制緩和、インバウンド再開、輸入麦価引き上げ等の影響により需要減少が鈍化した場合の令和5年6月末の民間在庫は207万ト(①)、需要が回復しなかった場合は213万ト(②)となり、基本指針を大幅に上回ることが見込まれる。

【需給見通し】 (単位：万ト)

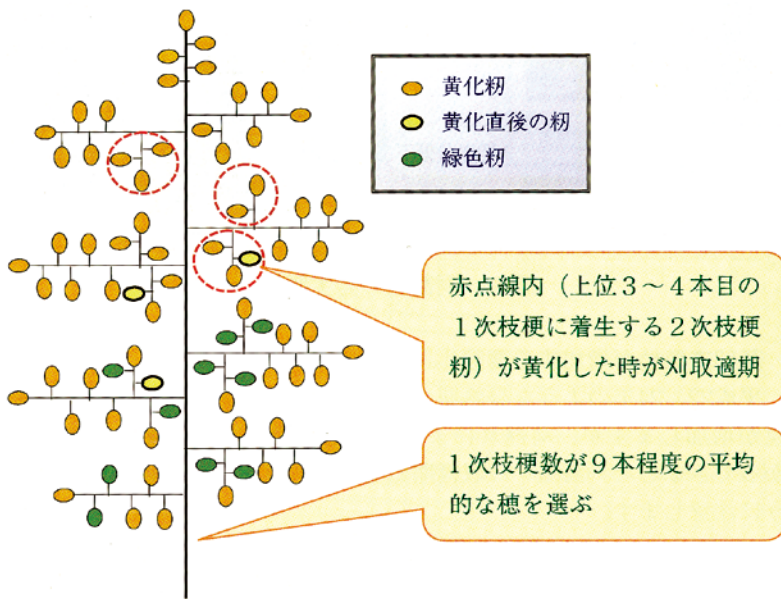
	基本指針 (4年3月)	JA全農試算		備考
		①	②	
3年6月末民間在庫量	A	218	218	
3年産主食用米等生産量	B	701	701	平年作696万ト
3/4年主食用米等供給量計	C = A + B	919	919	
3/4年主食用米等需要量	D	702～706	696	Eからの逆算、前年▲8万ト
4年6月末民間在庫量	E = C - D	213～217	223	前年+5万ト
4年産主食用米等生産量	F	675	676	5月末調査結果
4/5年主食用米等供給量計	G = E + F	888～892	899	
4/5年主食用米等需要量	H	692	692	①基本指針どおり、②前年比▲10万ト
5年6月末民間在庫量	I = G - H	196～200	207	

消費者の期待に応え続ける 「日本一おいしい米づくり」のため 魚沼コシヒカリ全体の食味確保に 向けた技術対策を徹底しましょう

稲作情報

収穫適期の黄化率85～90%の状況

(富山県水稻栽培指針から引用)

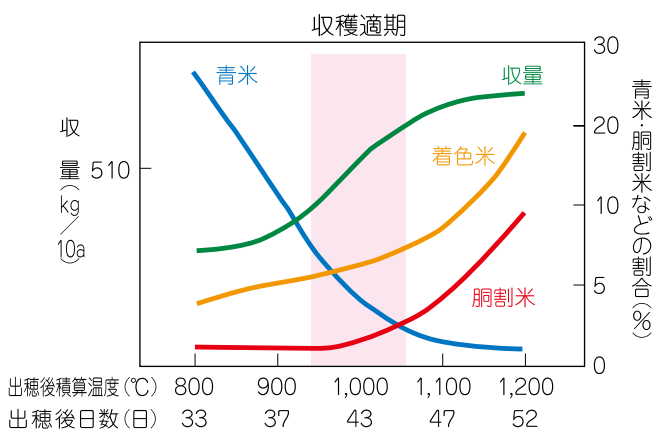


今年には特に生育差により出穂期のバラつきが大きい
ため、必ず粉の黄化状況を
確認したうえで、適期刈取
りに努めましょう。
また、適正な調整で高品質
米に仕上げましょう。

●適期刈取りで 品質向上

刈遅れは胴割米や着色米
などが増加し品質に大きく
影響します。
収穫時期の目安は、粉の
黄化状況で判断します。圃
場全体の粉の85～90%が黄
化したら刈取り適期となり
ます。また出穂後の積算気

出穂後の日数と玄米品質



温を参考にしてもよいで
しょう。コシヒカリの場合
1,000℃が目安となりま
す。
ただし、高温で推移した
場合は収穫適期幅が短くな
り、刈遅れによる品質低下
がおこりやすくなります。
このような時は、収穫はじ
めを2日程度早めて刈遅れ
ないようにしましょう。(積
算気温950℃程度)

●刈取り 乾燥上の留意点

①クサネム(コウボウチャ)
が見られる場合は刈取り前
に必ず取り除いてくださ
い。この種子は、調整や精
米をしても除去できず、炊
飯するとまわりのご飯粒が
着色してしまい、消費者か
ら非常に嫌われています。
②刈取りはできるだけ低水
分で行い、降雨後・早朝・

稲作情報



夜間の作業は極力さげましょう。高水分時の刈取りは損傷粒の発生が増加し、機械故障の原因にもつながります。

③変質米（ヤケ米）防止のため刈取り終了後は、できるだけ早く乾燥機で通風するようにしてください。カントリーエレベーターを利用する方は、速やかに搬入をお願い致します。

乾燥速度は1時間当たり0.5%で行い、仕上がり水分は15.0%としましょう。（過乾燥は食味低下につながります。）

乾燥機についている自動水分計は青米や屑米が多いと精度が低下する傾向がありますので注意をお願い致します。急激な乾燥は胴割れ粒が発生する原因となりますので気をつけてください。

また、乾燥が終了しても保管時の状況（温度・湿度・期間）で水分が変化する場合がありますので、注意が必要です。

●調整はていねいに

例年籾混入による格落、品質低下が目立ちます。

最終仕上げの調整作業をていねいに行いましょう。乾燥後、籾の温度が常温に戻ってから行い、ゴムロールの間隔などに注意し、必ず玄米の状況を確認しながら調整しましょう。

●稲わらすき込みの効果

稲わらのすき込みと、土づくり資材の併用により堆きゅう肥の施用と同等の効果が見込めます。

また、秋のすき込みは春に比べ、稲の生育期に発生するワキの原因となるメタンの発生や、根腐れの原因である硫化水素の発生を軽減させることができます。

●すき込みのポイント

稲わらの分解に関係する土壌微生物は、15℃以下に

なると活動が鈍くなります。

翌年の稲の作付けまでに充分分解が進まないこともあるので、収穫後できるだけ早く地温の高いうちに行ってください。腐熟促進剤の利用も効果的です。遅くとも10月中には完了するようにしてください。

すき込みの深さは、作業効率と土壌微生物の活性に役立つ酸素供給などを考慮して5〜10cmの浅うちとし

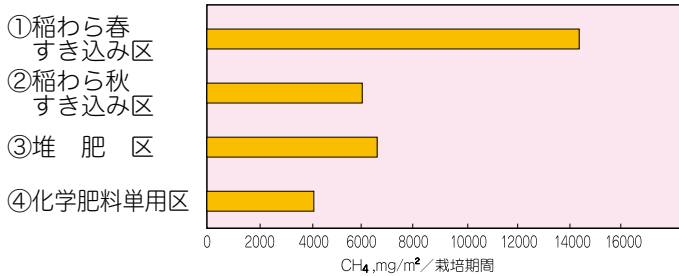
ます。

浅うちは、表面の稲わらが乾燥しやすいので、土と充分混和しておくことが分解を早めます。また、土壌水分が多いと分解が遅れるので、すき込み後は排水溝を作るなどして地表水の排水に努めてください。例年「ワキ」の発生が多い圃場では特に重要です。

●土づくり資材の施用

すき込み時に「魚沼ロマンアイアンスター」「越後の輝きソイル米スター」などを使用し土づくりを行いましょう。

施用量は、10アール当たり40〜60kgを基準とします。土づくりを行うことにより、異常気象に対する稲の抵抗性が高まります。翌年の稲づくりの第一歩としてしっかり行いましょう。



水田からのメタン発生量に対する稲わら処理の影響